

学生ものづくり・アイデア展実施報告書

平成 28 年度は富山大学工学部にて、「第 14 回学生ものづくりアイデア展」が開催された。長崎大学からは坂口、矢澤両教授がサポート教員として参画された「離島用超小型電動モビリティの開発」チーム（機械工学コース修士 1 年：平山 恒輝，構造工学コース 1 年：阿部 蒼也，電気電子工学コース 1 年：三小田 大樹，化学物質工学コース 1 年：八木 勇成）から代表者として平山君と三小田君が、また、小林教授がサポート教員として参画された「地図アプリを活用した市民による緊急車両移動情報共有システム」チーム（情報工学コース修士 1 年：別宮 祥太，情報工学コース修士 1 年：宮崎 大志，化学物質工学コース 1 年：竹内 賀徳，社会環境開発工学コース 1 年：中島 瑞穂）が学生の代表として参加した。上記 6 名の学生に加え、工学教育支援センター長の才本教授と副センター長の高瀬准教授、創造工房からは久田技術職員と松尾技術職員、それにセンター事務の岡田加恵さんが学生ものづくり・アイデア展 in 富山に臨んだ（12 月 3 日には小林透教授も現地入りされた）。ものづくり・アイデア展では 3 大学から 30 を超える出展があり、どのブースも活気に満ちていた。ブースではものづくりを行った作品の説明やデモを行うほか、参加者全員を大きな会場に集めてのショートプレゼンも行われ非常に活気に満ちていた。その中で、長崎大学から選出された 2 つの学生チームは見事最優秀賞と特別賞という実質的には全体で 1 位、2 位の賞を独占した。これは学生たちの努力の賜物であり、また、サポートされた教員による懇切丁寧なアドバイスと協力によるものである。この日の参加者全員による投票により選ばれたこれら 2 つの賞には、榮譽を称える記念の賞状と記念品とが贈呈されるとともに、夜の懇親会の席でも再び壇上でのスピーチを求められた。長崎大学からの参加者の一員として大変誇らしく、また、嬉しい一瞬であったことを良く覚えている。また夜の懇親会では、富山や新潟のいろいろなお酒が食堂で振舞われ、大変な歓迎ぶりであった。このような中、平成 29 年度の第 15 回ものづくり・アイデア展は長崎で開催されることになっており、富山のアイデア展ほど参加者を増やせるのか、アイデア展をどうやって盛り上げていくのかなど、多くの課題があって一抹の不安を感じている。平成 29 年度からは新しい工学教育支援センター長が就任されることになっているが、新センター長にすべてをお任せするのではなく、工学部教員が一丸となって「創成プロジェクト」と「総合工学演習」をサポートし、たくさんの学生がものづくりを実体験しながら工学を実践的に学ぶための活動を一層活発にしていく体制を築くことが何より大切である。また、高瀬副センター長には経験者として 29 年度のものづくり・アイデア展ではセンター長をサポートして大会を運営して頂きたい。余談ではあるが、12 月 2 日（金）に富山大学に向かう際には始発のバスで大村空港に向かい、その後成田空港へと飛んだ。ところが飛行機の到着が若干遅れたのと、元々乗り継ぎ時間がほとんどない状況であったため、全員で空港内を走って移動しなければならなかった。これも今では楽しい思い出の一つである。富山駅から大学までは長崎と同様に電車があって便利であるが、富山大の正門から

工学部のアイデア展会場までは学内を数キロ歩かなければならないなど、なかなか大変な旅であった。



「第 14 回 学生ものづくりアイデア展 in 富山」のようす



【最優秀賞】「離島用超小型電動モビリティの開発」チーム



【特別賞】「地図アプリを活用した市民による緊急車両移動情報共有システム」チーム